

開催日 令和5年11月19日
大会審判長 野崎 宏

第67回全日本大学空手道選手権大会 確認事項・取決め事項

1 選手の服装・安全具・禁止事項・確認事項

- (1) ゼッケンは指が入らないよう四辺全て確実に縫い付ける(ゼッケン無し出場不可)
- (2) 空手着の上着の長さは腰を覆うほどの長さで大腿の4分の3まで、袖は最長手首まで。ズボンは踝まで。腕、脚部の間は8～15cmの空きがなければならない。
- (3) 安全具は学空連マーク入りの規定通りの物以外使用できない。
◎拳サポーターは全空連及び学連マークが付いたWKFタイプのものに限る。
◎マウスピース(無色透明のみ)は奥歯まできちんとはまる物でなくてはならない。
《マウスピースが変造と判断された時点で『棄権』となる》
※『棄権』となった選手はその後の同種目試合には出場出来ない。
- (4) 爪は短く切る。ネイル・付け爪は禁止。
- (5) 審判団が髪の毛の色や髪型が不自然と判断した場合『大会委員長』と協議の上、棄権とする場合がある。
- (6) 選手はマスクを着用する場合、ヒロタ製のマスクを着用のこと。
- (7) 毎試合IDカードを必ず試合コートまで持ってくる(IDカード無し出場不可)

2 形競技について

- ◆第2ラウンドへは、男女共に各グループの上位4チームが進む。
《第2ラウンドの演武順番は、監督立会いのもと自動抽選で行う》
- ◆3位決定戦は行わない。〈第2ラウンドの各グループ2位が第3位となる〉
- ◆決勝戦は分解を行う。〈形演武と分解をあわせて5分間以内とする〉

3 組手競技内容・取決め事項について《現行ルールで行う》

競技時間は男子・女子ともに、2分間フルタイム6ポイント差。

ただし、準決勝戦・決勝戦は3分間フルタイム8ポイント差。

■両チーム初戦及び片方が初戦となる試合は勝敗が決まっても最後まで行う。

6ポイント差試合は、大将戦前に9ポイント差がついている場合は試合終了。

8ポイント差試合は、大将戦前に11ポイント差がついている場合は試合終了。

※整列は監督席に近い方から監督・先鋒・次鋒・中堅・副将・大将の順に並ぶ

※チームメンバーが規定数より少ない場合、オーダーは前詰めとする。

※試合開始の礼後は、先鋒以外用意した椅子で待機。次の選手以外は座って待つ。

◎空手着の腰紐は結ぶこと。《初戦からの紐なし空手衣は出場出来ない》：棄権

◎女子選手は、空手衣の下に白無地のTシャツを着用しなければならない。

学 10カウント以外で反則負け(カテゴリー1)をした選手は左腕に青テープ、反則勝ちをした選手は左腕に赤テープを巻付ける。2回同じテープを巻付けられた選手は、その後の試合には出場出来ない。またドクターストップと判断された場合、その後の同種目試合には出場することは出来ない。

学 10カウントが成立した試合で負けた選手はチームが勝ち進んでも出場出来ない。

4 異議申し立ての対応について

審判員の判定が競技規定に違反していると思われる場合『登録監督』のみが挙手により異議申し立てが出来る。対応はコート主任が行う。

当該競技終了後の異議申し立ては、如何なる理由があろうと一切認められない。

※異議申し立ては次の選手の名前が呼ばれるまでとし、最後の選手の場合には副審が集合するまでとする。

監督席についてない試合は異議申し立てを一切出来ない。

5 監督に関わる事項について

(1) 監督1名で男女の試合が重複した場合、試合途中での移動は認めない。

移動するには、現在監督席についている回戦試合が全て終わってからとする。

そして重複したもう一方の監督席につけるタイミングは、その対戦中の試合終了後とする。監督に付くにはコート主任の了承を得て監督席につく。

(2) 監督が「退場」となった場合、以後その回戦試合に監督がつくことは出来ない。

◎監督は静かに試合を見守る。＜審判ジェスチャー等を行わないこと＞

(3) 監督席に座れるのはIDカードを首にさげた登録監督のみ。

※監督の服装は大会要項14番jの通りとする。＜スカートは不可＞

※試合コートへ入場できるのは登録監督男女1名ずつとする。＜最大2名＞

学連大会、マナーの徹底について

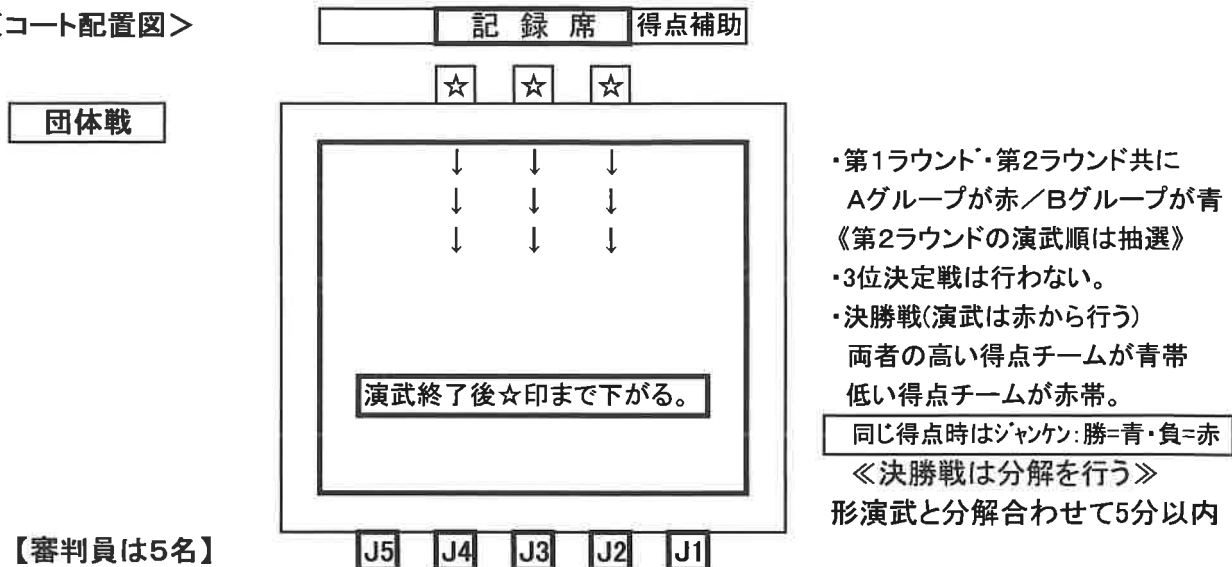
- 1) 最初と最後に、コート外とコート内で相手に合わせて礼をする。(計4回)
- 2) コートへはコンタクトレンズの予備及びタオル以外は持ち込まない。
- 3) マウスピースはコートに入る前からコートから出るまで装着しておく。
- 4) コートで円陣を組まない。また立って次の選手を激励する行為は行わない。
- 5) コート内で相手との拳サポータータッチ禁止、握手・ハグ行為は行わない。
- 6) 肩より上のガッツポーズは禁止。＜ひどい場合は得点技が取り消される＞
- 7) 得点技が決まった時、ポイントコール、勝ち名乗り時の『雄叫び』は行わない。
- 8) 当てた(C1)選手は相手に頭を下げる。＜C2は何もしない＞
- 9) 得点ポイントコール時、主審への頭下げは行わない。
- 10) 閉会式にも出来る限り全出場選手が参加するよう努力する。

第67回全日本大学空手道選手権大会

形競技方法

※第1第2ラウンドの全体の礼は試合開始、終了共に記録席前に整列して行う。
 ※決勝戦は選手紹介位置で試合開始の礼・終了の礼は判定をする記録席前で行う。

<コート配置図>



【審判員は5名】

・第1ラウンド・第2ラウンド共に
 Aグループが赤/Bグループが青
 《第2ラウンドの演武順は抽選》
 ・3位決定戦は行わない。
 ・決勝戦(演武は赤から行う)
 両者の高い得点チームが青帯
 低い得点チームが赤帯。
 同じ得点時はジャンケン:勝=青・負=赤
 《決勝戦は分解を行う》
 形演武と分解合わせて5分以内

<得点>

- ・第1ラウンド: 6.0基準(5.0~7.0) 0.1刻み【第1・2指定型】JKF指定形リストより選ぶ
- ・第2ラウンド: 7.0基準(6.0~8.0) 0.1刻み【得意形】JKF得意形リストより選ぶ
- ・決勝戦: 9.0基準(8.0~10.0) 0.1刻み【得意形】JKF得意形リストより選ぶ

◎審判(5名)は演武終了次第タブレットに得点を入れる。

《技術点と競技点とは分けず合わせた得点(0.1刻み)》

※第1第2ラウンドの通過チームは電光掲示板に表示されますのでJ1が発表する。

※決勝戦はJ1が選手側に行き勝者チームに勝ちを宣告する<合計得点はその後に表示する>

- ◆5名の審判が得点を表示した中で、最高点、最低点を除外し、残る3名の合計点が得点となる。
- ◆同点の場合、3名の得点の中で最低点を比べ高い方が勝ち、それも同じ場合は最高点を比べ高い方が勝ちとなる。それでも同点になった場合は再度異なる形で再試合を行う。
 ※形は第1ラウンドは第1・2指定形の中から、第2ラウンド以降は得意形の中から選ぶ。《再試合時も同様》
- ◆1度使用した形は使えない。但し、同点再演武で使用した形は再度演武出来る。

第1ラウンド

Aグループが赤
 Bグループが青

Aグループ(4チーム選出)

1位	第2ラウンドへ
2位	第2ラウンドへ
3位	第2ラウンドへ
4位	第2ラウンドへ
5位以下	敗退

Bグループ(4チーム選出)

1位	第2ラウンドへ
2位	第2ラウンドへ
3位	第2ラウンドへ
4位	第2ラウンドへ
5位以下	敗退

◎第2ラウンドの演武順番は、監督立会いのもと自動抽選で行う。

第2ラウンド

Aグループが赤
 Bグループが青

Aグループ(1チーム選出)

1位	決勝戦へ
2位	第3位決定
3位	敗退
4位	敗退

Bグループ(1チーム選出)

1位	決勝戦へ
2位	第3位決定
3位	敗退
4位	敗退

■3位戦は行わない。【Aグループ・Bグループの2位が第3位(2チーム)となる】

決勝戦

第2ラウンドで
 得点の高いチームが青帯(J1側)
 得点の低いチームが赤帯(J5側)

Aの1位 — **Bの1位**
 ☆優勝・準優勝が決定